

2026 年国際オープン韓国社会人剣道大会遠征レポート

1. 大会概要と参加規模

(1) 概要

今年は予定された大会会場が韓国の内部事情により急遽、宿泊先からバスで一時間半離れたカピョンクンにあるハンソクボン体育館に変更されました。

韓国各地の剣道クラブに加えて、日本、台湾、中国、モンゴル、アルゼンチン、フィリピン、香港という7つの国と地域から、約 1,500 の参加がありました。

今年は大会日程が変更された事もあり、I G K Cからの参加者は総勢 18 人でした。

アリーナには8試合場が配置、サブアリーナには2試合場が配置され、各試合場には前後にモニターが掲示され、時間も表示されていました。

毎年の事ですすがプログラム含めてハングル文字であったので、不便を感じました。また、プログラムには大会前日の金曜日に合同稽古会が記載されていましたが、大会会場が変更された事で中止となりました。

(2) 開会式

各来賓のあいさつに続き、セレモニーとして剣道人でありながらテノールチョウビョンジュ歌手の歌唱があり、剣道の形が男女ペアで演武されたのが印象的でした。

(3) 懇親会

10 日には宿舎のオリンピックパークホテルで懇親会が開催され、伝統的な楽器演奏および歌唱が披露され、文化交流にふさわしいものと感じられました。

2. 試合について

(1) 成績

団体戦（女性部）では東海チームが入賞する事ができました。団体戦 50 代と 60 代以上はよく頑張りましたが一回戦敗退となりました。

団体戦（女性部）の選手は與儀（東海）・小田（東海）・石田（東海）、団体戦（50 代）は中川（関東）・菊池（東海）・文（東北）・玉木（九州）、団体戦（60 代以上）関東チームは小川（関東）・鶴田（関東）・瀧内（関東）、近畿チームは田頭（近畿）・蛭子（近畿）・高野（近畿）です。

個人戦では 50 代で菊池（東海）先生が見事優勝されました。

70 歳以上の部で田頭先生（近畿）が優勝、高野先生（近畿）が準優勝でした。その他、入賞された I G K Cの選手は、有効打突の基準や剣風が異なる中でも、動ずることなく明解な一打を示された心の強さに感銘を受けました。

(2) 審判員、試合の傾向

有効打突の基準が甘く、試合数が多くてベスト 8 までは物打ちでなくても当たれば一本になりました。しかし試合が活性化する効果は大きいように思いました。

相手の試合ぶりも含めて、韓国では剣道をスポーツととらえている傾向があるように感じられました。

以上、2026 年度韓国大会の報告とさせていただきます。

N P O 法人 国際社会人剣道クラブ
東北地区クラブ 文 載 圭

開会式



個人戦 50代優勝 菊池(東海)先生



団体戦（女性部）東海チーム入賞



個人戦 50代 田頭先生（近畿）優勝 高野先生（近畿）準優勝

